

まちの話題

小佐小学校、浅野小学校で閉校式

3月23日に小佐小学校で、25日には浅野小学校で、それぞれ閉校式が行われました。

平成23年度の児童数が、小佐小学校は35人、浅野小学校では39人となるなど児童数の減少等から、100年を超える長い歴史に幕を下ろすことになった両小学校では、子どもたちや地域の方が見守る中で校長から広瀬市長へ校旗の返還が行われ、児童らがお別れのことばを述べた後、参加者全員で小佐小学校校歌、浅野小学生の歌を斉唱し学校に別れを告げました。

閉校後の跡地は、コミュニティスポーツセンターとして活用される予定です。

4月からは、

小佐小学校は

八鹿小学校と、

浅野小学校は

広谷小学校と

統合され、ス

クールバスで

通うことにな

る児童らは、

新しい学校で

の生活や友だ

ちづくりへの

期待に胸をは

づませていま

養父市立小佐小学校閉校式



全員で「お別れのことば」を発表する子どもたち



地域の方と共に最後の「浅野小学生の歌」を斎唱

した。

“球春”到来

春の到来を告げる「第9回養父市少年野球春季大会」が3月18日、20日の2日間、つるぎが丘公園グラウンドを会場として行われました。

8チームによるリーグ戦が行われ、迎えた決勝戦は、高柳パワーズ対八鹿ジュニアベースボール。

汗ばむような春の陽気に包まれる中、冬の間に蓄えた力を発揮しあった熱戦を征し、高柳パワーズが優勝しました。

子どもたちの元気いっぱいのプレーで、今年も野球シーズンが幕を開けました。



優勝した高柳パワーズ

高柳下区が農林水産大臣賞を受賞

八鹿町の高柳下区（勝地貞一区長）が、3月27日に東京で開催された全国水土里ネット表彰式において、農業農村整備優良地区コンクール農林水産大臣賞を受賞しました。これは、棚田の保全に積極的な都市部からの「棚田交流人（農村ボランティア）」の受け入れや、地域の特産である「蛇紋岩米」を道の駅レストランで提供したり、直売所で販売する等、不利な立地条件にもかかわらず、美しい景観の保全・棚田の活用を通じた農業振興に取り組む活動が認められたもの。

勝地区長は、「関係者の高齢化が一番の課題だが、秋に開通する北近畿豊岡自動車道八鹿氷ノ山インター（エンジ）の完成による都市部とのアクセス向上や交流人口の増加を活かし、さらなる交流の促進と地域の活性化を進めたい」と話されました。



名誉市民章を贈呈された中尾一和さん（右）

名誉市民顕彰式を開催

養父市となつて初の名誉市民、京都大学大学院医学研究科教授の中尾一和さんを迎えて3月20日、ピバホールで名誉市民顕彰式と記念講演会が行われました。

中尾さんは大屋町筏の出身で、八鹿高等学校を卒業後、京都大学に進まれ、昨年は紫綬褒章を受けられるなど多くの功績があります。

この日、会場を埋め尽くした300人を超す市民らを前に、中尾さんは「これまで講演した中で、一番緊張しています」と話され、「これまでの研究内容などをスライドで紹介しながら臨床データを交えて講演されました。



受賞の報告に市長室を訪れた高柳下区のみなさん

組織の変更については、第2次養父市総合計画に基づき、市民の皆様にわかりやすく利用しやすい市民本位の組織になるよう工夫いたしました。市民サービスのワンストップ化、組織の強化、事務事業のスピードアップを図るため、部・課の統廃合を行うとともに、人事の刷新（若返り）を行っています。部・課の統廃合や名称変更などにより、暫くはどまどいが生じるかもしれません、案内表示の充実等により解消をはかりたいと考えています。

市民の皆様との協働により「住みたい、住んでよかつた」と思える養父市づくりを行ってまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

平成24年度がスタートしました。今年は、第2次養父市総合計画の実質的なスタートの年でもありますので、その将来像にある「響きあう心　世界へ拓く　結の郷　やぶ」に一步でも近づくため、市政運営の基本テーマを「医・食・住・学、生活基盤の構築」と定め、その実現に向けて市民目線で組織を見直し、大きな組織の変更を行いました。

抨啓 市民の皆様